

ミクタム詩編の特徴と起源(1)

著者	佐々木 哲夫
雑誌名	東北学院大学宗教音楽研究所紀要
巻	4
ページ	1-8
発行年	2000-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00000244/

〈論文〉

ミクタム詩編の特徴と起源 (1)

佐々木哲夫

1. はじめに

詩編の表題にはさまざまな情報が記載されている。例えば、指揮者や旋律など音楽に関する情報、「賛歌」や「ダビデ」など詩編名や個人名に関する情報、さらには、「記念」や「ダビデがユダの荒れ野にいた時」など詩編の種類や歴史状況に関する情報などの記載である。¹⁾ これまで、しばしば、詩編の表題は、捕囚後の祭儀に基づくもので詩編本文の歴史性と必ずしも一致するものではないと考えられてきた。他方、古代オリエントの詩歌や賛歌において表題や奥付の記載が珍しくないとの事実から、表題を捕囚期以降の記述であると年代設定することに疑問が提起されている。²⁾ 本稿においては、詩編を解釈する場合、表題を含めた本文全体の総合的考察が必要であると考え。特に、ミクタム詩編と呼ばれる詩編16編および56～60編を釈義する場合、ミクタムという標題のもとに記された詩編群であるが故に、³⁾ その詩編群に共通する特徴的要素が見いだされるのではないかと、また、その特徴的要素を手掛かりとしてミクタム詩編群全体に関する議論が可能になるのではないかと考える。以上のような課題を認識しつつ、本論文においては、まず最初に、表題に記載されているミクタムの言葉の意

味について考察し、次に、ミクタム詩編群の釈義によってその特徴を明らかにし、最終的には、詩編群の起源に関する考察を試みたいと考えている。

2. ミクタムの意味

ミクタム (מִקְטָם) という言葉の意味に関して、いくつかの説が提案されている。例えば、音楽に関連する用語と考えるユダヤ教の説がある。Rashiは、ミクタムの意味に関し多くの説明を加えた後、これは音楽的脚色のための用語であると解した。他方、Radakは、ミクタムが特別な楽器の名称であると注解している。⁴⁾ このように、もし、ミクタムが楽器を意味していると想定するならば、楽器のためにいくつかの詩編が蒐集されるという珍しい現象を仮定することになる。例えば、「伴奏付き」と訳されている מְנַחֵם (music of stringed instrument)⁵⁾ が、詩編4、6、54、55、61、67、76に分散されて記されていること、また、詩編56～60のミクタムがさまざまな曲名と共に記されているが、מְנַחֵםは曲名と共に記載されてはいないことなどから、この説は困難であると考え。⁶⁾

また、ミクタムが、特別な音楽的脚色を意味しているならば、歌詞の一部を記して

特定の調べを指定するなどの指示が併記されるべきと期待される。しかし、詩編16編には何も併記されていない。

ミクタムの言葉がもう一つ別の意味「王冠」の意味を持つとの説もある。Feuerは、次のように記している。

Rashi also suggests as alternate translation "a crown." David was accustomed to constantly repeat the following plea 'protect me, O God, for in You I take refuge' until it enveloped and encircled him like a crown.⁷⁾

この説において **מִקְתָּם** は、**קָתַר** (to surround) から派生した語と考えられている。即ち、**מִקְתָּר** (Piel ptc. m. sg.) もしくは **מִקְתִּיר** (Hiphil ptc. m. sg.) からの派生語だという推定である。しかし、**ק** と **כ** の置換は困難な想定であり、語源的な支持が得られていない説である。

さらに、**מִקְתָּם** が **קָתַם** (gold) から派生したとの説もある。この説は、Ibn Ezraによって主張された。⁸⁾ 彼は、ミクタムと雅歌5章11節aの **רֵאשׁוֹ קָתָם כֶּזֶב** (his head is the finest gold) と関連させ、「秀逸で重要な詩」であることを告げる表題だと解釈した。しかし、嘆きの歌 (lament psalms) に分類される詩編に記されている表題の語が、人間の理想的愛を教える雅歌からの引用と推論する説は困難な想定だと考える。

Talmudは、異なる視座からの解釈を提案している。例えば、**מִקְתָּם** を **קִיד** (hum-

ble) と **קָיָה** (innocent) の二語に分割して解釈する。即ち、ダビデが謙虚で純潔な王であることを告げる表題であると理解する。⁹⁾ 他方、Midrashは、**מִקְתָּם** を **מִכְּבוֹת** と **תְּמוֹת** の二語から合成された語として理解し、「徹底的討伐 (total beating)」の意味に解釈した。例えば、詩編60編の表題には、ダビデが塩の谷でエドム人12,000人を討ち取ったと記されている事例を挙げる。即ち、Midrashは、アラムとの問題をヨアブがダビデに告げたので、ダビデが即座に解決に乗り出したと理解している。¹⁰⁾

以上のように、ラビたちは、旧約聖書に記載されている歴史状況と整合するような既知の言葉の組み合わせによって **מִקְתָּם** の意味を定義しようとした。Ibn Ezra が **מִקְתָּם** を **קָתַם** (gold) からの派生語と考えたことは前述した。ところで、雅歌5章11節と関連させずに **קָתַם** に接頭語の **מִ** が結合したと考えて **מִקְתָּם** を解釈する説もある。石碑に刻印された金文字 (an inscription) の意味に解釈する説である。ダビデと関係する記述であるが故に、金文字で刻印されたと考えられたのである。この説は広く流布され、C. A. Briggs や M. Dahood も支持している。¹¹⁾ しかし、既に E. Hengstenberg が指摘しているように、この解釈には文法的な困難がある。¹²⁾

他方、**כ** と **מ** は互換性があるとの考えを根拠に、**מִקְתָּם** を **מִקְתָּב** と同一視して読む説がある。¹³⁾ 例えば、イザヤ書15章2節の **דִּיבֹן** (dibon) が、イザヤ書15章9節では **דִּימוֹן** (dimon) と記されている。¹⁴⁾ このような記載は、常道を逸しているとか方

言的変異であると注解されている。¹⁵⁾ H. Leupoldは、𐤎 が 𐤌 に書き換えられた理由として、デボンの運命の重さを理解した預言者が 𐤁𐤏𐤍 に 𐤒𐤍 (blood) の単語を重ね合わせて表現しようとした結果の現象だと説明している。¹⁶⁾ しかし、𐤎 と 𐤌 の置換は、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 だけでなく他においても観察される現象である。例えば、𐤒𐤓𐤕𐤁 (fat, 創41:2, 士3:17) と 𐤒𐤓𐤕𐤁 (王上1:9)、𐤁𐤏𐤍 (time, ダニ2:8) と 𐤁𐤏𐤍 (コヘ3:1, ネヘ2:6) などである。

幾人かの注解者は、イザヤ書38章9節の 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 (the writing of Hezekiah) と 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 との関係を描している。例えば、H. Ginsbergは、以下のように記し、ミクタム詩編が石に刻印されて公開された詩であると指摘している。¹⁷⁾

Whether or not, therefore, the words 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 and 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 related etymologically, in the verse we have cited both alike prove that at least the authors of these verses did not hesitate to attribute to the pious kings of Judah the practice so well attested for other nations of the Ancient Orient of setting up inscriptions of petition and acknowledgment.

Ginsbergは、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 と 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 との関連には言及せず、もっぱら、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 と 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 との関連について議論している。ただし、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 と 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 が同一であると結論づけているわけではない。

アッカド語 *katāmu* (cover) に基づいた議論もなされている。J. Thirtleは、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 が「覆う (covering)」や「隠す (concealing)」の意味を有していると想定し、個人的で私的な詩編を意味していると理解した。他方、S. Mowinckel は、ミクタム詩編が下記の通り犠牲や贖罪の儀式に基づくものと考えた。¹⁸⁾

The word is probably transferred to the psalm its object in connection with the sacrifice and ceremonies of atonement and purification on a day of prayer and humiliation, and so is only used for psalms of Yahweh, as in Ps. 16, is such an act of 'atonement,' which would 'cover' sin in the eyes of Yahweh. The only exception is Isa. 38:9, if here we replace the MT heading 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 by 𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁, for this psalm is a psalm thanksgiving after illness, however, this makes the correlation impossible.

しかし、この解釈は、*katāmu* の有する意味を適切に反映させたものではない。¹⁹⁾ なぜなら、ミクタム詩編は、罪よりも危機的状況が主題にされていると考えられるからである。例えば、B. Eerdmansは、𐤒𐤒𐤓𐤕𐤁 を "to cover the lips" の意味に解し、²⁰⁾ 通常の祈りと異なる "a silent prayer" を意味していると説明している。²¹⁾

さらに、アッカド語の *katāmu* (to cover) と同じ意味のアラビア語 *māktum* (hidden,

secret) に基づく解釈がある。例えば、Leupold が **מִסְתָּרִים** を “a mystery poem” と訳し、Hengstenberg が深遠な意義を含んだ詩という意味で “a secret” と訳している。²²⁾

注

- ¹⁾ 旧約聖書に収載されている150編の詩編の表題を項目ごとに分類してまとめたのが以下の表である。

詩編	表題の情報				
(I)					
1					
2					
3			N1	A1	H3
4	M1	T1	N1	A1	
5	M1	T2	N1	A1	
6	M1	T1 T3	N1	A1	
7			N2	A1	C1
8	M1	T4	N1	A1	
9	M1	T5	N1	A1	
10					
11	M1			A1	
12	M1	T3	N1	A1	
13	M1		N1	A1	
14	M1			A1	
15			N1	A1	
16			N3	A1	
17			N4	A1	
18	M1			A2	C2 H18
19	M1		N1	A1	
20	M1		N1	A1	
21	M1		N1	A1	

22	M1	T6	N1	A1
23			N1	A1
24			A1	N1
25				A1
26				A1
27				A1
28				A1
29			N1	A1
30			N1 S1	A1
31	M1		N1	A1
32			A1	N5
33				
34				A1 H34
35				A1
36	M1			A2
37				A1
38			N1	A1 C3
39	M1 M2		N1	A1
40	M1		A1	N1
41	M1		N1	A1
(II)				
42	M1		N5	A3
43				
44	M1		A3	N5
45	M1	T7	A3	N5 S2
46	M1	A3	T8	S3
47	M1		A3	N1
48		S3	N1	A3
49	M1		A3	N1
50			N1	A4
51	M1		N1	A1 H51
52	M1		N5	A1 H52
53	M1	T9	N5	A1
54	M1	T1	N5	A1
55	M1	T1	N5	A1
56	M1	T10	A1	N3 H56

57	M1	T11	A1	N3	H57
58	M1	T11	A1	N3	
59	M1	T11	A1	N3	H59
60	M1	T12	N3	A1	C4 H60
61	M1	T13		A1	
62	M1	T14	N1	A1	
63			N1	A1	H63
64	M1		N1	A1	
65	M1		N1	A1	S1
66	M1	S3	N1		
67	M1	T1	N1		S3
68	M1		A1	N1	S3
69	M1	T7		A1	
70	M1		A1		C3
71					
72				A5	
(III)					
73			N1	A4	
74			N5	A4	
75	M1	T11	N1	A4	S3
76	M1	T1	N1	A4	S3
77	M1	T14	A4	N1	
78			N5	A4	
79			N1	A4	
80	M1	T12	A4	N1	
81	M1	T4		A4	
82			N1	A4	
83		S3	N1	A4	
84	M1	T4	A3	N1	
85	M1		A3	N1	
86			N4	A1	
87		A3	N1	S3	
88	S3	N1	A3	M1	T15 N5 A6
89			N5	A7	
(IV)					
90		N4	A8	A9	

91					
92		N1		S3	C5
93					
94					
95					
96					
97					
98		N1			
99					
100		N1			C6
101		A1	N1		
102		N4	A10		H102
103			A1		
104					
105					
106					
(V)					
107					
108		S3	N1	A1	
109	M1		A1	N1	
110			A1	N1	
111					
112					
113					
114					
115					
116					
117					
118					
119					
120				S4	
121				S4	
122				S4	A1
123				S4	
124				S4	A1
125				S4	

126		S4	
127		S4	A5
128		S4	
129		S4	
130		S4	
131		S4	A1
132		S4	
133		S4	A1
134		S4	
135			
136			
137			
138			A1
139	M1	A1	N1
140	M1	N1	A1
141		N1	A1
142		N5	A1 H142 N4
143		N1	A1
144			A1
145		N1	A1
146			
147			
148			
149			
150			

M1: to the choirmaster. **M2:** to Jeduthun. **T1:** with the stringed instruments. **T2:** for the flutes. **T3:** according to the Sheminith. **T4:** according to the Gittith. **T5:** according to Muth-labben. **T6:** according to the Hind of the Dawn. **T7:** according to Lilies. **T8:** according to Alamothe. **T9:** according to Mahalath. **T10:** according to the Dove on Far-off Terebinths. **T11:** according to Do Not Destroy. **T12:**

according to Shushan Eduth. **T13:** with a stringed instrument. **T14:** according to Jeduthun. **T15:** according to Mahalath Leannoth. **N1:** a psalm. **N2:** a Shiggaion. **N3:** Miktam. **N4:** a prayer. **N5:** a Maskil. **A1:** of David. **A2:** of David the servant of the Lord. **A3:** of the sons of Korah. **A4:** of Asaph. **A5:** of Solomon. **A6:** of Heman the Ezrahite. **A7:** of Ethan the Ezrahite. **A8:** of Moses. **A9:** the man of God. **A10:** of the Afflicted. **S1:** a song at the dedication of the house. **S2:** a song of love. **S3:** a song. **S4:** a song of ascents. **C1:** which he sang to the Lord concerning Cush, a Benjamite. **C2:** who spoke to the Lord the words of this song. **C3:** for a memorial. **C4:** to teach. **C5:** for the Sabbath day. **C6:** for the thanksgiving. **H3:** when he fled from Absalom his son. **H18:** on the day when the LORD delivered him from the hand of all his enemies, and from the hand of Saul. **H34:** when he feigned madness before Abimelech, so that he drove him out, and he went away. **H51:** when Nathan the prophet came to him, after he had gone in to Bathsheba. **H52:** when Doeg, the Edomite, came and told Saul, "David has come to the house of Ahimelech." **H56:** when the Philistines seized him in Gath. **H57:** when he fled from Saul, in the cave. **H59:** when Saul sent men to watch his house in order to kill him. **H60:** when he strove with Aram-naharaim and with Aram-zobah, and

when Joab on his return killed twelve thousand of Edom in the Valley of Salt. **H63**: when he was in the Wilderness of Judah. **H102**: when he is faint and pours out his complaint before the LORD. **H142**: when he was in the cave.

²⁾ 津村俊夫「古代オリエントの表題付きの詩歌」『Exegetica (旧約釈義研究)』第3号 (1992年) 1-7頁。

³⁾ G. H. Wilson, "Evidence of Editorial Divisions in the Hebrew Psalter," *Vetus Testamentum* 34 (1984): 342-43.

⁴⁾ A. C. Feuer, *Tehillim: A New Translation with a Commentary Anthologized from Talmudic, Midrashic and Rabbinic Sources*, 5 vols. (Brooklyn, N. Y.: Mesorah Publication, 1979), 1:192.

⁵⁾ BDB, 618.

⁶⁾ 曲名が表題に記されている詩編は, 22, 46, 53, 62, 69, 75, 77, 80, 81, 84, 88 である。

⁷⁾ Feuer, *Tehillim*, 1:192.

⁸⁾ Ibid., J. J. Stewart Perowne. *The Book of Psalms: A New Translation with Introductions and Notes*, 2 vols. (Grand Rapids, Michigan: Zondervan, 1976), 1:196. U. Simon, *Four Approaches to the Book of Psalms: From Saadia Gaon to Abraham Ibn Ezra* (N.Y.: State Univ. of New York Press, 1991), 239-40.

⁹⁾ Feuer, *Tehillim*, 1:192., W. G. Braude, trans., *The Midrash on Psalms*, 2

vols., Yale Judaica Series, vol. 13, (New Haven: Yale Univ. Press, 1959), 1:196.

¹⁰⁾ Feuer, *Tehillim*, 3:746-47., Braude, *Midrash*, 1:496.

¹¹⁾ C. A. Briggs, *A Critical and Exegetical Commentary on the Book of Psalms*, The International Critical Commentary, 2 vols. (Edinburgh: T. & T. Clark, 1906), 1:ix; "The eighteen-century etymology of J. D. Michaelis, who connected מִקְהָל with מָהָל "gold", and understood the inscription as gold-lettered, remains possible. "M. Dahood, *Psalms I:1-50*, The Anchor Bible, no. 16 (Garden City, N.Y.: Doubleday, 1968), 87. P. C. Craigie, *Psalms 1-50*, Word Biblical Commentary (Waco, Texas: Word Books, 1983), 154.

¹²⁾ E. W. Hengstenberg, *Commentary on Psalms*, trans. P. Fairbairn and J. Thomson, Clark's Foreign Theological Library, vol. 1 (Edinburgh: T. & T. Clark, 1876), 232. "but it is to be objected to this exposition, that scarcely a single noun can be found with מָהָל, which borrowed its signification merely from a derivation noun, without respect to the idea of verb, and especially one which occurs in poetry."

¹³⁾ W. L. Holladay, *A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old*

- Testament* (Grand Rapids: Eerdmans Publishing Company, 1971), 567.
- 14) Ibid., 105., G. Phillips, *The Psalms in Hebrew: With a Critical, Exegetical and Philosophical*, 2 vols. (London: John W. Parker, West Strand, 1846), 1:xlvi, xlix.
- 15) G. B. Gray and A. S. Peake, *A Critical and Exegetical Commentary on the Book of Isaiah*, The International Critical Commentary, 2 vols. (N.Y.: Charles Scribner's Sons, 1912), 1:285.
- 16) H. C. Leupold, *Exposition of Isaiah*, 2 vols. (Grand Rapids: Baker Book House, 1968), 1:281.
- 17) H. L. Ginsberg, "Psalms and Inscriptions of Petition and Acknowledgment," in *Louis Ginsberg Jubilee Volume: On the Occasion of His Seventieth Birthday*, ed. Alexander Marx and et al. (N.Y.: The American Academy For Jewish Research, 1945), 171.
- 18) S. O. P. Mowinckel, *The Psalms in Israel's Worship*, 2 vols. (N.Y.: Abingdom Press, 1962), 2:209.
- 19) I. J. Gelb and et al., eds. *The Assyrian Dictionary of the Oriental Institute of the University of Chicago* (Chicago: The Oriental Institute, 1956-), 8:298-303.
- 20) Ibid., 8:299.
- 21) D. Kidner, *Psalms 1-72: A Commentary on Book I-II of the Psalms* (London: Inter-Varsity, 1975), 38.
- 22) Leupold, *Psalms*, 147., Hengstenberg, *Psalms*, 1:232.